

## 平成17年度農林水産技術会議事務局予算概算決定の重点事項

### 〔基本的考え方〕

- 国民の食の安全・安心のニーズに対応するとともに、農林水産業の現場を支える技術の開発とこれらの技術開発を支えるゲノム等の先端的研究開発を柱に推進

平成17年度は、農業構造改革の加速化とアジア諸国との競争への対応、食の安全に対する国民の不安、知的財産権を巡る国際競争の激化等に対処するため、以下に関する研究開発に重点

- ① 食料産業の国際競争力の強化
- ② 地域における食料産業の活性化
- ③ 食の安全・安心の確保
- ④ 今後の食料産業の発展基盤の強化

- 総合科学技術会議の「平成17年度の科学技術に関する予算、人材等の資源配分の方針」、「平成17年度科学技術関係予算の改革について」を踏まえ、競争的研究資金を充実

# 〔重点事項の説明〕

## I 農林水産研究開発プロジェクト

(百万円)

### 1 食料産業の国際競争力の強化

#### (1) 高生産性地域輪作システム確立のための技術開発

130(0)

大規模な畑作、水田作における生産性の高い地域輪作システムの導入のため、輪作体系における労働時間や生産費の低減を目指し、モデル事業の枠組みの中で、複数年次にわたり計画的に技術開発を実施。また、生産局と連携し、開発した技術の普及・啓発を一体的に実施。

#### 北海道畑輪作

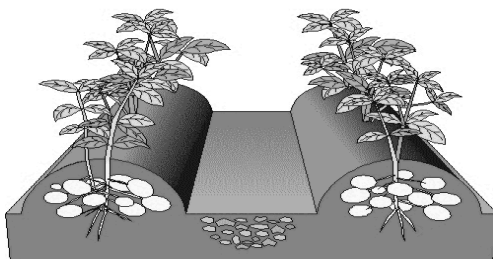
##### 問題点

- ・担い手の大幅な減少に対応する規模拡大が急務
- ・馬鈴しょの収穫作業と麦の播種作業の競合が規模拡大を阻害
- ・省力化が進んだ小麦に作付が偏り、輪作体系に乱れ

##### 技術開発の推進

#### ○馬鈴しょのソイルコンディショニング技術

- ・畦には柔らかい土壌、畦間部分には硬い土壌を仕分ける技術
- ・高品質化と収量向上に貢献
- ・収穫作業効率化により、小麦播種作業との競合が緩和



#### 水田輪作

##### 問題点

- ・麦・大豆の耕起栽培では降雨の影響を受けやすく、適期播種が困難
- ・麦の収穫作業と大豆の播種作業が競合
- ・規模拡大のためには水稲春作業の省力化が必要

##### 技術開発の推進

#### ○ディスク駆動式汎用播種機による不耕起栽培技術

- ・耕起、代かき（水稲）、畦立て（大豆）を省略する栽培技術
- ・1台の播種機で稲・麦、大豆に対応可能
- ・降雨後でも効率的に播種できるため、適期の播種が可能
- ・また、労働時間を大幅に削減（約3割）でき、規模拡大が可能



(2) 新鮮でおいしい「ブランド・ニッポン」農産物提供のための総合研究

1, 088 (1, 096)

－施設野菜の高品質・周年安定生産技術の開発－

高リコペントマト等について、その特性を十分発揮させつつ生産性の向上を図るため、高軒高施設において、夏季高温の克服など施設内環境を適切に制御する技術の開発、施設内空間の高度利用技術の開発等を新たに実施。

2 地域における食料産業の活性化

(1) ウナギ及びイセエビの種苗生産技術の開発

200 (0)

－幼生の生残率決定要因の解明と安定的飼育技術の開発－

種苗の安定確保が困難であるウナギ及びイセエビの種苗を安定的に生産するために不可欠な、ウナギ良質卵の生産技術の開発、ウナギ及びイセエビの幼生を正常に育成するための飼料・環境条件の解明及び最適化技術を開発。

(2) 農林水産バイオリサイクル研究

1, 400 (1, 260)

－畜産臭気の低減と家畜排せつ物の利用のための技術開発等－

家畜排せつ物の有効利用及び畜産業の持続的な発展を確保するため、畜産臭気の低減技術及び液肥（メタン発酵残さ液）の有効利用技術等を開発するとともに、バイオマスの地域循環システムの実用化を促進するため、地域モデルの構築及び実証に関する取組を強化。

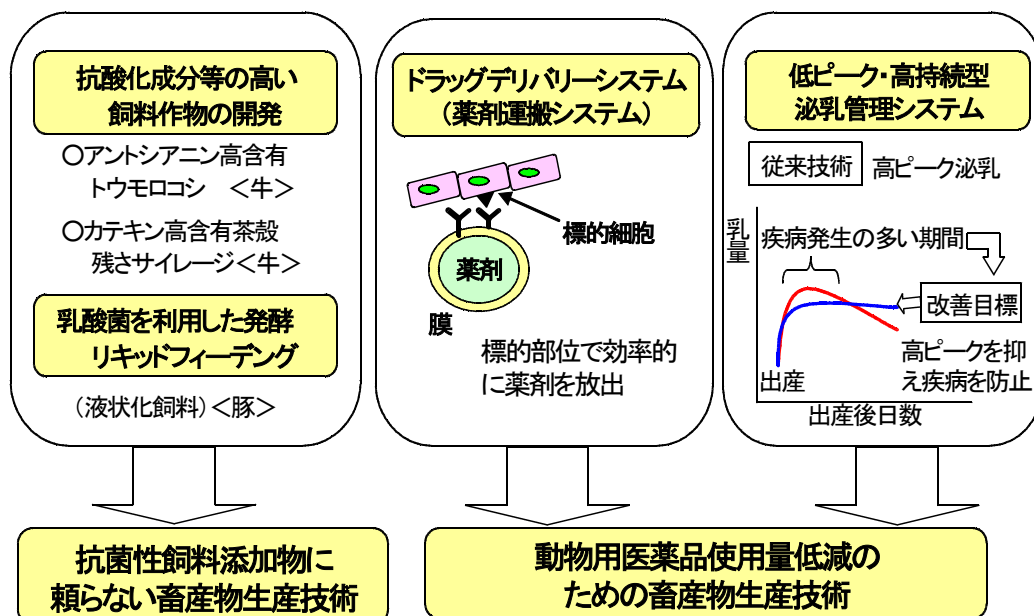
3 食の安全・安心の確保

(1) 安全・安心な畜産物生産技術の開発

150 (0)

－抗生物質に依存しない減投薬飼養管理システムの構築－

抗菌性飼料添加物及び動物用医薬品の使用量を低減させる減投薬飼養管理システムの構築に向けて、抗菌性飼料添加物に頼らない畜産物生産技術を開発するとともに、動物用医薬品使用量低減のための畜産物生産技術を開発。



## (2) 牛海綿状脳症(BSE)及び人獣共通感染症の制圧のための技術開発

875(861)

### 一人獣共通感染症の制圧に向けた疾病監視システムの構築

主な人獣共通感染症について、媒介動物と家畜での病原体の感染・増殖・排出メカニズムの解析と発病との関連の解明、スクリーニングを可能とするELISA法(酵素免疫測定法)等の簡易・迅速診断法を開発。

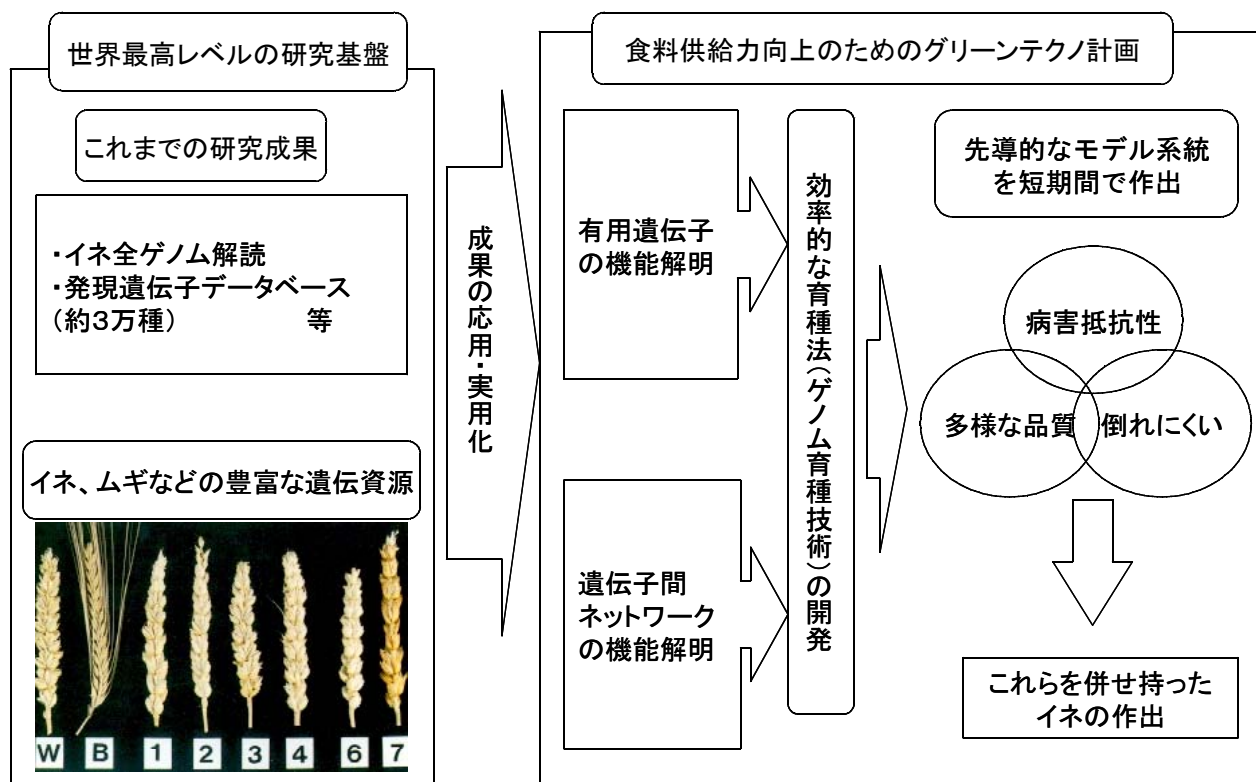
## 4 今後の食料産業の発展基盤の強化

### ○ ゲノム育種による効率的品種育成技術の開発

1,580(0)

#### ー食料供給力向上のためのグリーンテック計画ー

食料供給力の向上と新産業の創出に資するため、耐病性、多収性、耐冷性などの量的形質に関する遺伝子(QTL遺伝子)の単離の迅速化を行うとともに、QTL遺伝子の集積や多数のDNAマーカーの同時利用等による効率的な育種法(ゲノム育種技術)を開発。



## II 競争的研究資金の充実

### 1 生物系産業創出のための異分野融合研究支援事業

2, 670 (1, 760)

バイオ等生物系先端技術による新産業の創出のための産学官連携による異分野融合研究や起業化を推進するための研究開発の拡充。

### 2 農林水産・食品分野における民間研究助成のうち

地域食料産業等再生のための研究開発等支援事業 873 (0)

地域食料産業等の再生に資するため、食料産業等が直面する諸課題に対し短期集中的な民間研究開発の支援を行う競争的研究資金の強化。

### 3 先端技術を活用した農林水産研究高度化事業 3, 846 (3, 000)

現場に密着した試験研究を一層推進するため、食品の安全・安心に関するリスク管理等を強化する研究（リスク管理型研究）、他府省の基礎・基盤研究で生まれた技術等を農林水産分野に積極的に応用する研究（府省連携型研究）、年度途中で発生した緊急課題に対応して短期間で取り組む調査研究（緊急課題即応型調査研究）を創設。

## III 研究基盤の充実強化等

### ○ 運営費交付金（競争的研究資金を除く）及び施設整備費補助金

55, 991 (56, 330)

研究基盤の充実強化を図るため、独立行政法人の中期計画に沿った研究開発並びに施設及び設備の整備を着実に推進。